

「複式炉を考える」

令和3年10月23日 福島県文化財センター白河館

元福島県文化財センター白河館 学芸員 森 幸彦

1 複式炉とは？

- ・複式炉の命名

後藤守一と梅宮茂 ※福島市（旧飯野町）白山遺跡（1957年調査 1960年発表）

2 複式炉の特徴

- ・構造 土器埋設部+石組部+前庭部
- ・時期 大木9式～10式の限定期 発生と消滅
- ・分布 北＝岩手・秋田、西＝富山、南＝埼玉
- ・国指定史跡 宮畑遺跡、浦尻貝塚、和台遺跡

3 複式炉文化

- ・住居：福島県内 1,000棟以上 企画性
- ・集落：200遺跡以上
- ・中心：文化の中心は福島県 安達太良？
- ・エネルギーの転換：土器から石へ
- ・土器：注口土器の出現
- ・石器：縦長剥片
- ・他の遺物：人体文土器、狩猟文土器、土偶、石棒

4 複式炉の機能

- ・出現、消滅の論理的証明
- ・調理法説、祭祀説



5 「原始炉」の研究

森 幸彦（もりゆきひこ）

昭和33年生まれ。63才。県立原町高校、明治大学文学部史学地理学科(考古学専攻)卒業。昭和58年県教育庁文化課に学芸員として採用、3年の博物館設立準備を経て、昭和61年、県立博物館設立時から学芸員として勤務。平成10年、福島県文化財センター設立準備のため県庁文化課に異動。福島県文化財センター白河館「まほろん」を立ち上げ4年勤務し、平成17年より県立博物館に再び異動、平成30年3月退職。同年4月から大熊町教育委員会学芸員として勤務。他方、南相馬市鹿島区鎮座「伊勢大御神(いせおおみかみ)」宮司。延喜式内御刀神社、山田神社ほか数社の宮司。専門は縄文文化研究。



梅宮茂氏「複式炉文化論」の骨子

時期：縄文時代中期後葉≪大木 9a 式～大木 10(新) 式≫

機能：調理法の多様化・火への信仰・火山信仰

・石組部＝暖房用焚き火・照明・土器の煮沸・土製品の焼成

埋設土器部＝調理・火種の保存・火の供献　・前庭部＝火の祭祀

住居：3本主柱または4本主柱・設計のパターン化・収容人口増加に対応・

強固・立体空間利用・場の分化・火棚の存在・冷涼化対策

集落：大規模化・環状集落・安達太良型複式炉

文化圏：安達太良山麓を中心とする約 80km 圏内

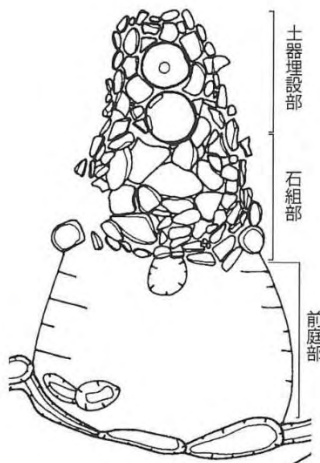
精神面：火山安達太良山の信仰

その他：注口土器の出現（木の実酒）、貯蔵食料、種子類保存、パン状炭化物、サケ・マス乾魚保存、取灰、中心地域移動説

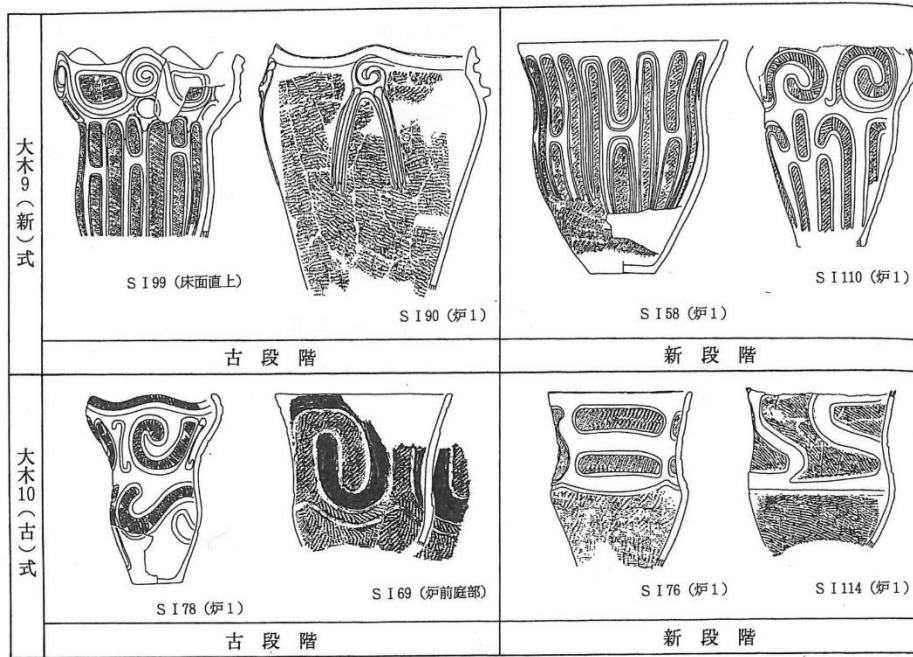
第1図



複式炉各部の名称
二本松市塩沢上原 A 遺跡
12号住居跡



第2図 複式炉の断面 福島市和台遺跡 134号住居跡



第3図 法正尻遺跡における大木9(新)式~大木10(古)式の土器の変遷



高木遺跡251号住居跡 複式炉と炉内埋設土器(大木9新式)



高木遺跡269号住居跡 複式炉と炉内埋設土器(大木10a式)



高木遺跡179号住居跡 複式炉と炉内埋設土器(大木10a式)

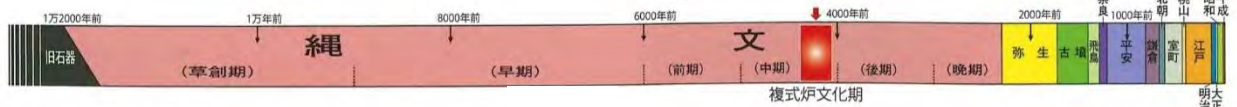


大型の竪穴式住居の跡 郡山市曲木沢遺跡



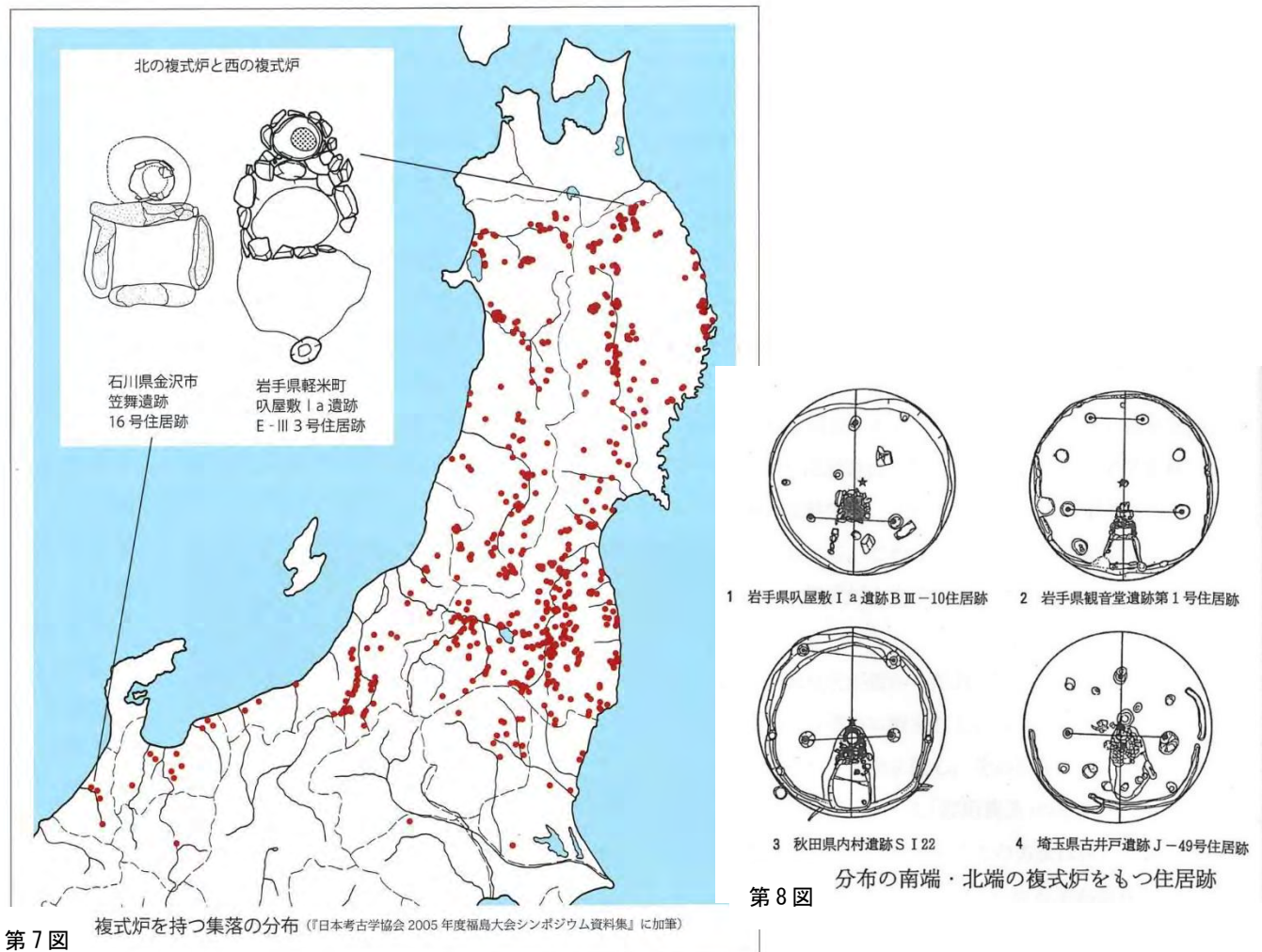
こんなに人が入れます 郡山市曲木沢遺跡

第4図



第6図

「複式炉文化」の時間的位置



第7図

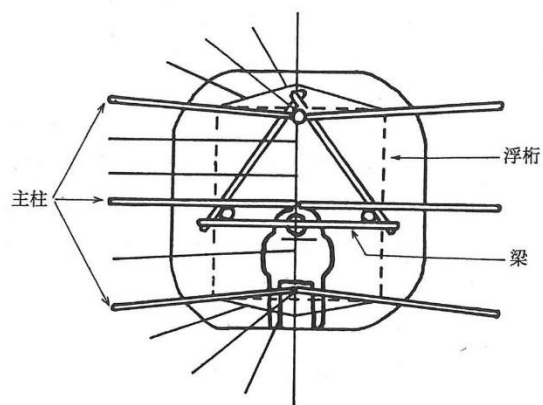


第9図 福島県内の複式炉を持つ集落の分布



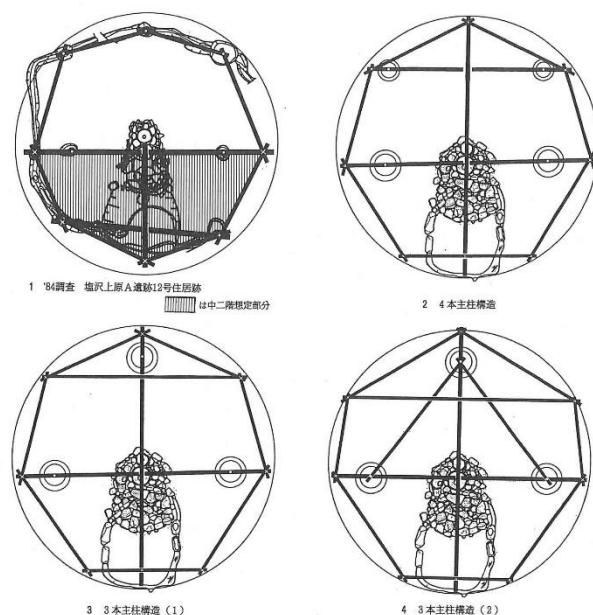
図19 原町区域の縄文時代遺跡の時期別分布

第10図

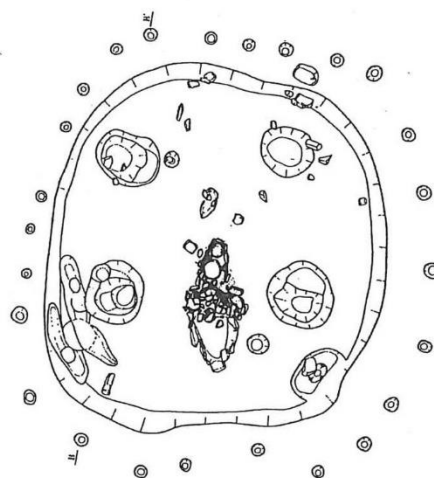


第11図 岩淵遺跡第1号住居跡の上屋構造

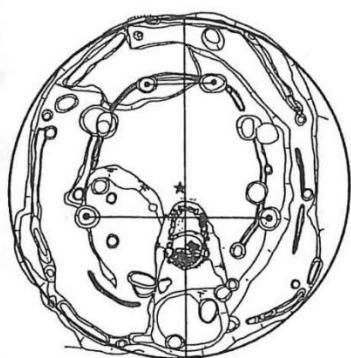
(目黒1976より転載)



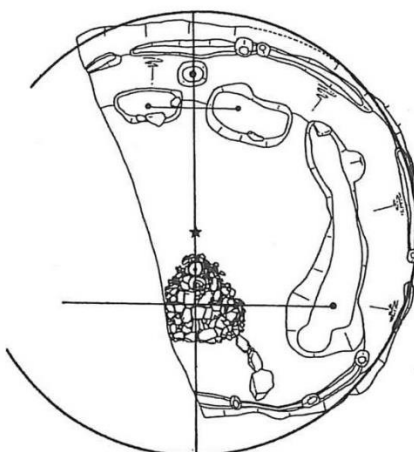
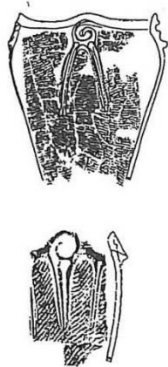
第12図 複式炉をもつ住居跡の上屋構造推定図



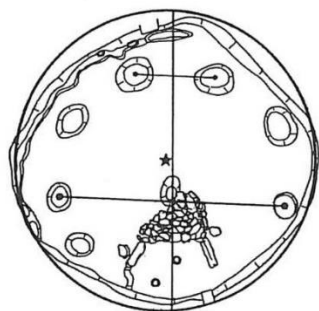
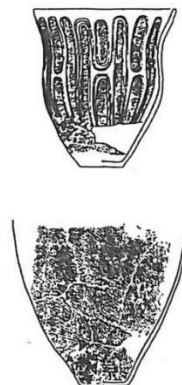
第13図 上ノ台A遺跡S I 36



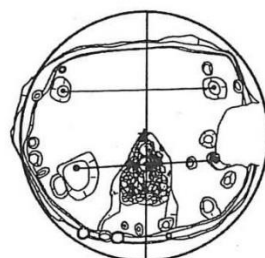
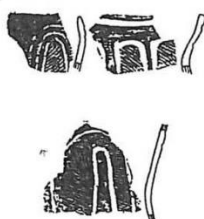
1 SI90



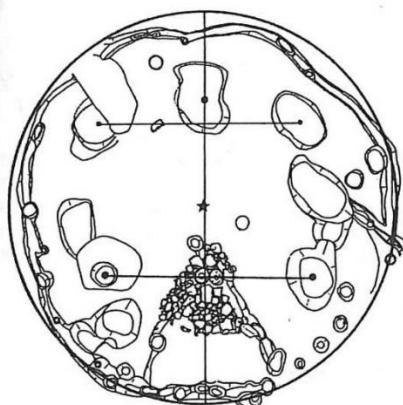
2 SI58



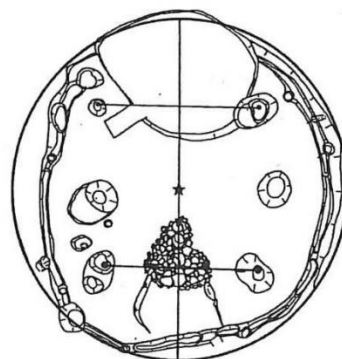
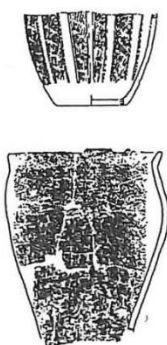
3 SI61



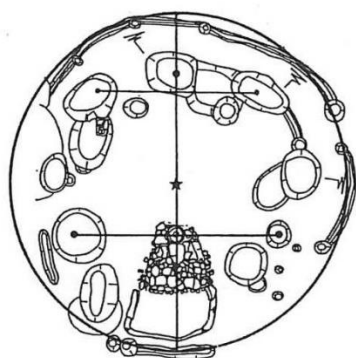
4 SI62



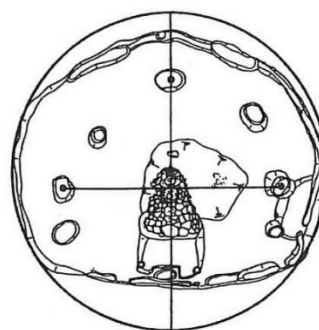
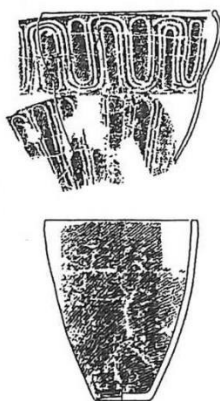
5 SI66



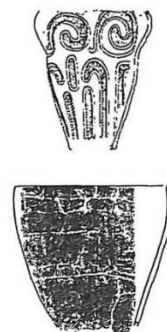
6 SI70



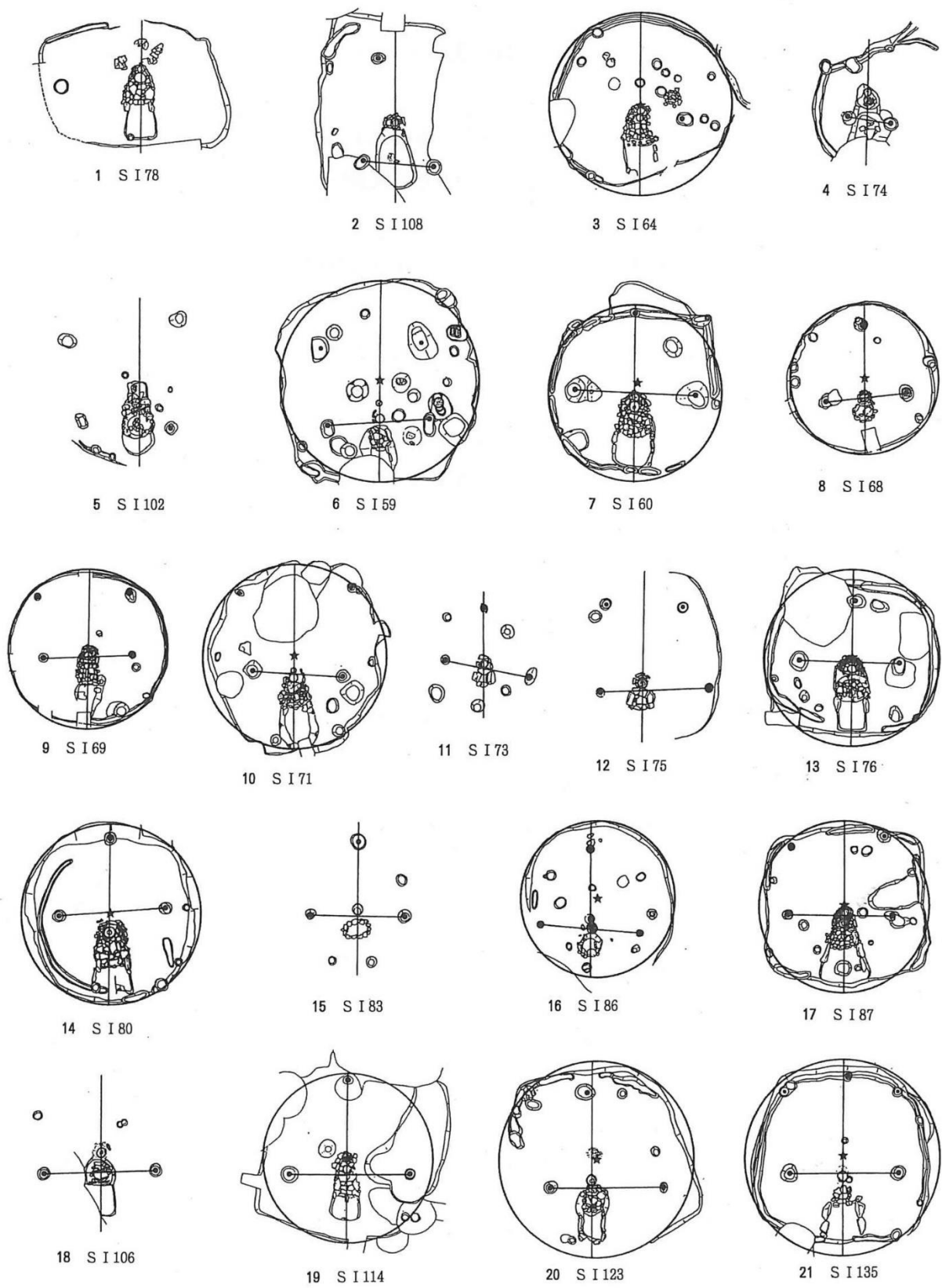
7 SI79



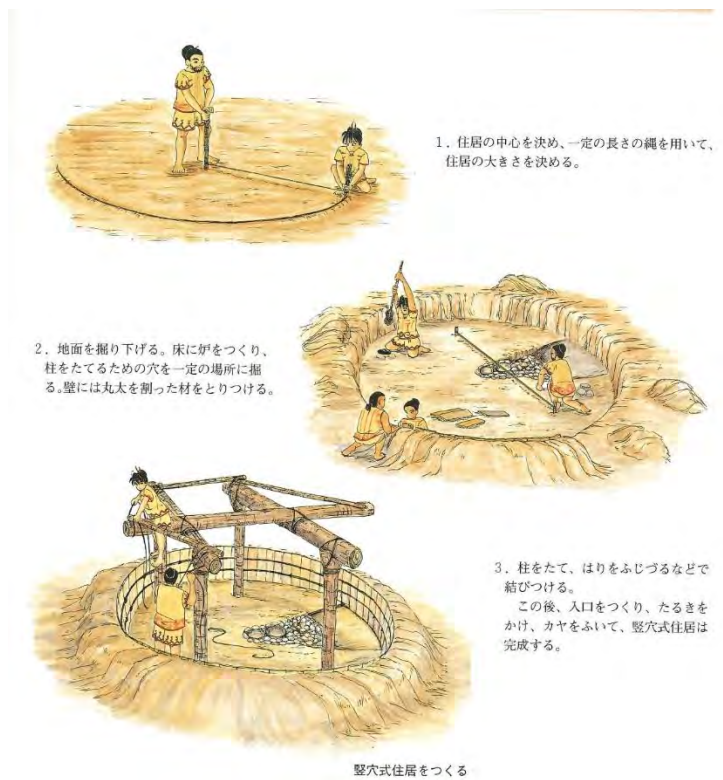
8 SI110



第14図 法正尻遺跡における大木9(新)式期の住居跡



第15図 法正尻遺跡における大木10(古)式期の住居跡



第 16 図



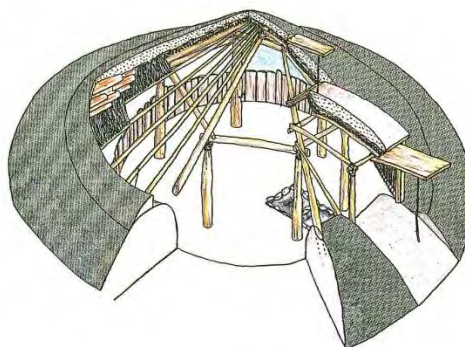
第 17 図 復元された竪穴式住居 福島県立博物館



竪穴式住居の内部



第 18 図 火災にあった竪穴式住居 岩手県御所野遺跡



御所野遺跡の竪穴式住居の復元
(一戸町教育委員会提供)



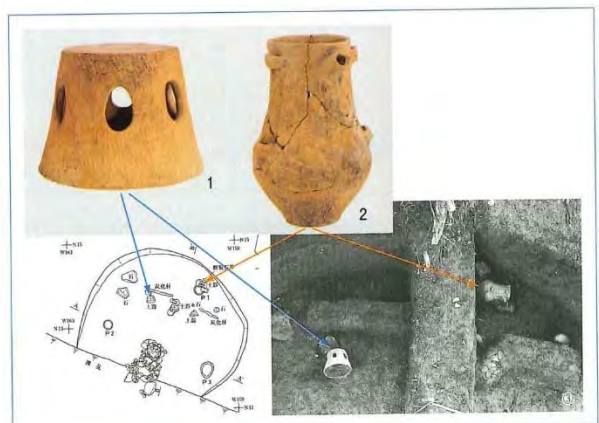
注口土器のうつりかわり 1 喜多方市博毛遺跡 2 西会津町小屋田遺跡 3 三春町柴原 A 遺跡 4 会津坂下町花畑遺跡
5・8 飯館村上ノ台遺跡 6 南相馬市宮後遺跡 7・10・11 本宮市高木遺跡 9 田村市北鹿又地区

第 19 図



南相馬市宮後遺跡敷石住居跡 注口深鉢と人体文土器の出土状況

県指定史跡前田遺跡近くの山の斜面で農道工事中に発見された。このタイプの土器が5～6点まとまって出土したというが、他は散逸したらしい。右の土器に伴うと思われる蓋も出土している。→

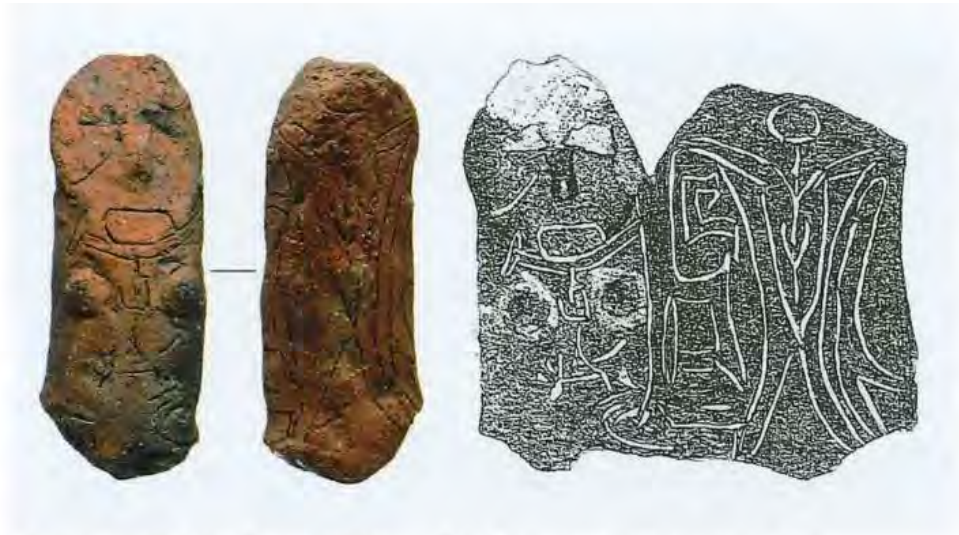


福島市宇輪台遺跡36号住居跡 台形土器と注口壺形土器の出土状況 写真提供：福島市教育委員会



田村市船引町北鹿又字向山地内採集 ヒサゴ形注口土器

第 20 図



本宮市高木遺跡 男根の形をした土偶の表と裏



福島市和台遺跡78号埋設土器 写真提供：福島市教育委員会

第 21 図 土偶の背中



檜葉町井出上ノ原遺跡 45号住居跡 同住居跡出土石棒と土偶



写真提供：中央大学文学部考古学研究室

第 22 図



福島市愛宕原遺跡 9号住居跡 壁に突き刺さった石棒
写真提供：福島市教育委員会
第 23 図



福島市和台遺跡 狩猟文土器文様部

第 24 図



第 25 図 青森県葦窪遺跡の狩猟文土器



第 26 図 岩手県馬立Ⅱ遺跡の狩猟文土器



福島市和台遺跡78号埋設土器 写真提供：福島市教育委員会

第 27 図



第 28 図 福島市和台遺跡の人体文土器



地面を掘りくぼめた炉 縄文時代中期中ごろ



石でこった炉 縄文時代中期中ごろ



石でこって土器をうめた炉 縄文時代中期中ごろ



ふくしき炉



ふくしき炉



ふくしき炉 縄文時代中期後半



石でこった炉 縄文時代後期後半



かまど 古墳時代



かまど 近代



ガスレンジ 現代

第 29 図 原始炉の研究



第 30 図 南相馬市東町遺跡

福島県立博物館『企画展図録 発掘ふくしま 4』（2017 年）の表紙



原子炉（現代）



第 31 図 まほろん 竪穴住居幻影